

■韓国：電力公社、2019年上半期も巨額赤字

2019年8月15日付の現地専門紙によると、韓国電力公社（KEPCO）は2019年度上半期の収支を発表し、連結ベースで9,285億ウォン（約820億円）の営業赤字を記録したことを明らかにした。KEPCOの営業赤字は業績不振であった昨年に比べてさらに1,138億ウォン（約100億円）悪化しており、上半期ベースでは2012年以来、最悪の実績となった。この収支悪化について、現地専門紙は、政府の脱原子力方針や大気汚染対策の下で安価な原子力や石炭火力の稼働率が低かったことに加えて、環境対策費用が膨らんだためと指摘している。KEPCOは政府からの指導もあり、夏季の電気料金引き下げを実施していることから、現地では2019年通年の収支に関しても悲観的な見方が強くなってきている。